

対馬釜山事務所だより

タリゴ、オルゴ、ノレハゴ! (走って、登って、歌って!)

7月に行われた行事を表現したら、表題の3つの単語でまとめられます。

『走る』

7月3日には、「第9回国境マラソンIN対馬」が三宇田浜で開かれました。地元の対馬をはじめ、北は茨城から南は沖縄まで、それと韓国からの参加者を含めて1,155名が参加しました。今年は台風ではなかったのですが、時々雨が降って参加者全員は「水もしたたるいい男といい女」になっていました。

レースの後、何回も国境マラソンに参加したことがある韓国の方に感想を聞いたところ「国境マラソンの魅力は対馬の豊かな自然環境。そして、皆が協力し合い大会を作っていく姿が、小さいころの運動会を思い出させます。」と話していました。

『登る』

7月12日は、釜山市影島区役所の職員と対馬市役所職員のスポーツを通じた交流会が釜山でありました。表題で気がついた方もいらっしゃると思いますが種目は山登り。山登りは韓国人にとってはもっとも好まれるスポーツであります。登山したのは釜山で一番有名な「金井山(クムジョンサン)」。



影島区担当者から「今日の山登りコースは散歩の気分で歩いても十分ですよ。ほぼ平地のような道ですから」と言われましたが、登る途中で対馬市の職員からは「これって平地なの?」といった声が上がっていましたが、山登り同好会のメンバーである影島区職員としての「平地のような道」という意味が分かった時はもう後戻りは出来ない地点でした。途中、雨が降ってくると影島区職員が対馬の女性職員にレインコートを貸してあげたり、やさしく道案内したり、言葉は通じなくても優しい心は通じた登山でした。

『歌う』

7月15日に開かれた釜山吹奏楽祭に、上対馬高校のブラスバンド部が出演しました。今年で4回続けて出演するためか、海外での演奏にもかかわらず緊張している生徒はほとんどいないようでした。今年は釜山の「慶南工業高校」のブラスバンド部と韓国の「アリラン」と日本の「少年時代」を合同で演奏しました。2時間くらいの合同練習と一回のリハーサルだけで本番の舞台上に上がりましたが、皆、上手に自分の楽器を演奏していました。その上に制服も似ていて、まるで一つの学校のブラスバンド部がハーモニーを作っているように見えました。

異国との交流のいい点はちょっとした違いでも大きく感じられ、いい刺激になるということだと思います。その刺激の影響でもっと大きく羽ばたいてほしいものですね。



対馬釜山事務所 きむ金 きよんいる京一、しん辛 うんぎょん恩京